関東中央病院 Memories
想い出のアルバム No.2

このシリーズは、平成５年（1993 年）１月から、「緑のひろば」で 12 回にわたって連載された記事の再掲載です。

病院建築は今でこそ鉄骨・鉄筋コンクリート造が常識ですが、昭和 28 年の開設時は木造平屋建てでした。別表を見ていただくと規模（延床面積）の違いがわかると思います。時代の流れもありましょうが、当初は結核療養所的な存在で面積配分が病棟中心であったこと、医療技術の発達に伴う医療機器の占めるスペースが増大したこと、快適さを求めるスペースが拡大したこと、などが床面積増加の主な要因でしょう。

昭和 27 年８月 20 日

（別表）

	延床面積（病棟・外来関係）	ベッド数	職員数（概　数）
昭和 28 年	2,178 ㎡	１３５床	８４
38 年	12,027 ㎡	５５０床	３３３
48 年	17,676 ㎡	４８６床	３００
58 年	19,165 ㎡	４３７床	３６７
平成 5 年	27,945 ㎡	４７０床	４６０

近年マスコミでは、清掃工場や精神薄弱者施設などの建設反対運動が、よく報道されます。当院の建設にあたっても、結核療養所的性格が反対の声の対象となりました。当時の世相としては、結核療養所的な病院はやはり煙たい存在だったのでしょう。

（緑のひろば　平成５年２月号）

昭和 62 年 10 月ごろ
建築中の新病棟
右上のベランダは旧西病棟

開設当初の正面玄関、現在の敷地北東角（セブンイレブンの向い側）

昭和 28 年第７～ 10 病棟

◆次回は平成 25 年 1 月号に掲載します。